読書の家から

新刊案内

■あぶた読書の家

＜一　般＞▽水を抱く（石田衣良）▽私家本椿説弓張月（平岩弓枝）▽潮の音、空の青、海の詩（熊谷達也）▽炎の塔（五十嵐貴久）▽夕暮れの時間に（山田太一）▽トワイライト・シャッフル（乙川優三郎）

＜児童書＞▽目で見る経済（お金）のしくみと使い方（A・ポール／相良倫子）

◆読書の家の本は町民皆さんの大切な資料です。一人ひとりが借りた本を大切に扱って、次に借りる人が、気持ち良く借りられる様にして欲しいものです。

■みずうみ読書の家

＜一　般＞▽お伊勢まいり新・御宿かわせみ（平岩弓枝）▽愛のようだ（長嶋有）▽無戸籍の日本人（井戸まさえ）▽わかれ（瀬戸内寂聴）▽竹屋ノ渡（佐伯泰英）▽旅立ノ朝（佐伯泰英）▽八洲探訪（佐伯泰英）▽望郷（湊かなえ）▽残酷な王と悲しみの王妃（中野京子）▽空海の文字とことば（岸田知子）▽天下人の茶（伊東潤）▽天平の女帝（玉岡かおる）▽颶風の王（河崎秋子）▽はだれ雪（葉室麟）▽王色の虹（三浦英之）▽若沖（澤田瞳子）▽薄情（絲山秋子）▽鳥の不思議な生活（ノア・ストリッカー）▽せまりくる「天災」とどう向き合うか（鎌田浩毅）

■洞爺総合センター図書室

＜一　般＞▽ジョン・マン　青雲編（山本一力）▽ジョン・マン　5立志編（山本一力）▽禁断の魔術（東野圭吾）▽ストーリー・セラー（有川浩）▽小説土佐堀川広岡浅子の生涯（古川智映子）▽無名仮名人名簿（向田邦子）▽消えたなでしこ（西村京太郎）▽洗脳地獄の12年からの生還（Ｔｏｓｈｉ）▽この作家この10冊（本の雑誌編集部）▽キナコ（いとうみく　作青山友美　絵）

●開館時間
10時～16時20分まで

●3月休館日
17日・24日・31日・4月7日（毎週木曜日・祝祭日休館）

あぶた ☎76-2100
みずうみ ☎75-4702

今月の1冊

「チロヌップの子さくら」
作　たかはしひろゆき

北の孤島チロヌップで、与平の娘さくらときつねのチロは、兄弟のように暮らしていました。ある日、さくらが息を引き取ったことによって・・・。詩情豊かな絵本。

ピノキオ読み聞かせの会

■日　時　4月20日（水）
14時30分～

■場　所　あぶた読書の家

わたしのうた

短　歌　【あぶた短歌会】　二月定例会

晴れながら冬の寒風（かぜ）に乗せられて
雪片舞いまう朝の風花　大西　芳子

つっがなく暮せることのしあはせを
かみしめながら春の季待たむ　山木　孝

節分も過ぎて来る春の待つのみと
寒き日あれども心なごみぬ　北島　加代

休みなく働きづくめの妻のため
夕餉に一品つくってみるか　太田　智

のぼり来し鮭はカラスに食されて
川べりのあたりに骨をさらしぬ　元田フジ子

俳　句　【あぶた俳句会】　二月定例会

暁の凍てにとどろく宮太鼓　矢野　知子

凍て付く夜ニシン漬が旨くなる　三瓶　修

佐保姫のお出ましを待つ昨日今日　千葉　征子

軒つらら月のひかりに真正面　那須　伶子

日高馬先立つ鼻の息白し　小笠原　勇

寒林を射抜く朝日や目覚よし　菅原　敏子

寿命てふ重さ量るや牡丹雪　佐藤　美風